

# 行政報告

市議会9月定例会が9月1日に招集され、小畑市長が行政報告を行いました。その中から、主なものの要旨をお知らせします。

## 雇用状況

本年7月のハローワーク大館管内の有効求人倍率は0.34倍で、前年同期に比べ0.28ポイント下回り、大変厳しい状況となっています。

また、来年3月に市内の高等学校を卒業予定の生徒の動向は、就職希望者226人のうち県内希望者が半数以下の111人で、県内希望者を増やすためにも、地元企業に対し早期求人をお願いしています。

市が実施している雇用創出事業の状況については「緊急雇用創出臨時対策基金事業」で、これまで12事業で36人、10月から18事業で37人の合計73人を雇用する予定で、本年度の事業費総額は6651万1千円になる見込みです。

一方「ふるさと雇用再生臨時対策基金事業」では、これまで5事業で16人、10月からは3事業で7人の合計23人を雇用する予定で、本年度の事業費総額は5729万1千円になる見込みです。

今後とも、各種基金事業等を活用し、雇用の創出を図っていきます。

## 企業誘致の状況

本年4月に、福島県の遠藤林業株式会社が大館市に進出し、製材の出荷を開始しています。同社では、現在26人を雇用していますが、工場の改修などを行っているため、改修後の本格的な操業開始時に、大館市工場等設置促進条例に基づく指定工場として指定する予定です。

また、秋田市に本店を置く有限会社گرانピアの進出が決定しました。同社は、秋田の気候に合わせた独自の製法で、主に県内産の無菌豚を利用して生ハムを生産しています。

同社では、旧山田小学校の校舎を活用する計画で、仕込み時期の冬季には10人ほどの雇用を見込んでいます。さらに「生ハム製造の体験教室」の実績も豊富で、グリーン・ツーリズムと連携した観光振興にも一役買っていたいただけるものと期待しています。

一方、企業誘致活動については、7月30日に「秋田県及び県内市町村と首都圏企業との懇談会」に参加し、県内の各誘致企業のトップの方々と情報交換を行いました。

## 農作物の生育状況等

ました。翌31日には「大館市企業誘致協力員」の委嘱状交付式を行い、首都圏で活躍中の本市出身者など14人のかたを委嘱しました。今後もうこうした方々との情報ネットワークを最大限活用し、1社でも多く企業を誘致していきます。

全国的な異常気象の中、本市では7月の長雨や強風、豪雨で、農作物に被害が発生しました。

水稲は、一部地区で葉いもち病が発生したため、広報車の巡回と「コメ通信」を活用して、湛水管理、病害虫防除、日照不足に対する技術対策の徹底を呼び掛けました。8月に入ってから晴天に恵まれ、出穂盛期は8月8日と平年並みになり、葉いもち病も収まり、穂ぞろい、登熟も概ね良好に推移しています。

野菜は、各作物とも生育遅延や品質低下が見られ、特に病害虫の発生が平年より多くなっています。また、7月中旬の強風で、キュウリの露地ものに茎折れ、葉折れによる樹勢低下や果実変形が見られたほか、ホップはすべてのほ場で、棚



昨年の稲刈り風景

## 大館市観光物産プラザのオープン

### オープン

8月8日、ホテルクラウンパレス秋北の1階に「大館市観光物産プラザ」をオープンしました。

この施設は、曲げわっぱ、地酒、きりたんぼなど、本市の物産品を一同に集めて展示、販売するとともに、観光客への情報提供などを行う場として設置したもので、運営は「社団法人大館市観光協会」に委託しています。

これまでの来場者数は4千人を超え、特にお盆休みの期間は、帰省客を中心に1日平均約400人が来場し、銘菓やハチ公関連の商品などが売り切れるほどの盛況でした。

今後は、ホームページの立ち上げなど情報発信を強化し、商品の開発なども行い、名実ともに観光物産の拠点となるよう整備していきます。

## 有浦保育園分園の開設

桂城幼稚園の空き教室を利用して開設を計画していた有浦保育園分園は、改修工事が完了し、本日(9月1日)入園式が行われました。

分園は、開設が年度途中で3歳児から